

宮城学院女子大学 支援室サポーター

2025年度 活動報告書

作成：2025年度支援室サポーター 齋藤はるな 佐藤永佳

活動内容

- ・ 支援室サポーターは、「大学で何か困っていることがあれば、お互いに助け合えたらいいよね」という気持ちを大切に活動しています。
- ・ 主に昼休みに定例会を行い、研修会、活動の相談や報告を行なっています。ランチやお菓子をつまみながら、無理のない範囲で参加しています。
- ・ 活動に取り組む中で、多様性の理解や自身のスキルアップを目指しています。





2025年度の活動

- ・ 定例会
- ・ 各ワーキンググループごとの活動
(発言カード作成WG、お茶会・交流会準備WG、趣味・余暇活動推進WG、バリアフリー状況調査WG)
- ・ 研修会
- ・ 個別のサポート活動

今年度は、主に学生センター支援室内の会議室や講義館、人文館で活動しました。

定例会

毎週金曜日に学生課となりの会議室にて、各WGの進捗報告や相談を行いました。各自お昼ご飯を持ち寄り、作戦会議をしました。



活動内容を用紙に記録します！

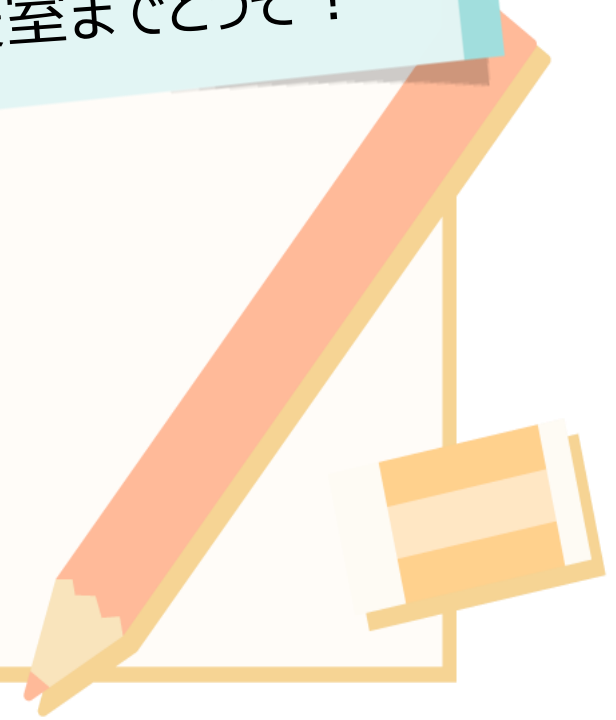
メンバー構成

◇ 1年生	1名
◇ 2年生	7名
◇ 3年生	6名
◇ 4年生	5名
➡ 2025年度	19名

特別支援室スタッフ 2名
(主任・コーディネーター)

メンバーは随時
募集しています！

気になる方は
支援室までどうぞ！



サポーターへの登録動機

- 学科・専攻で学んでいることと関係があるから。
- 対人支援や教育に関わる仕事に就きたいと思っているから。
- ボランティアに興味があるから。
- 昨年度参加して、人の立場に立って考えるという経験ができ、視野が広がったから。
- 自分自身の成長・スキルアップにつながると思ったから。
- 他学科・他学年の人と交流をしたいから。
- 自分のペースで活動でき、授業との両立がしやすいから。
- 知人が入っていて興味を持ったから。

※似たものをまとめたり個人が特定されないよう表現を変えたりして記述



ワーキンググループ

発言カード作成WG

目的

発言者やグループワークのルールを明確にし、グループワークをより円滑にすることを目的として活動しています。聴覚障害や発達障害を持つ学生をはじめとして、すべての学生にとって参加しやすいグループワークづくりを目指します。

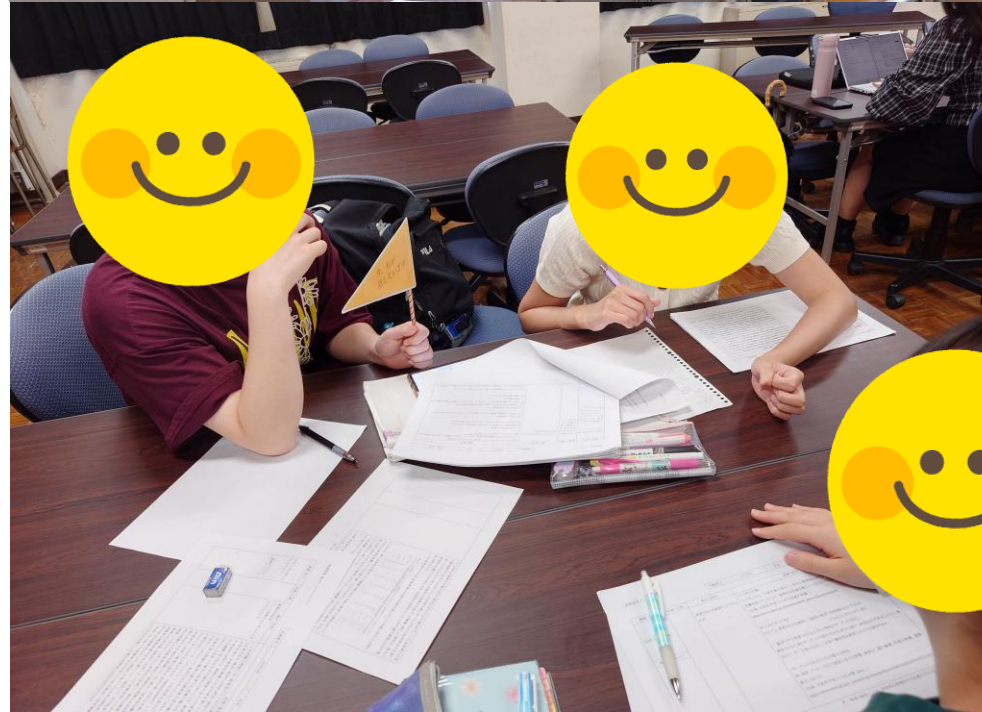
活動

教員の先生方にアポイントを取り、作成した発言カードについて説明し、アドバイスをいただきました。また実際に先生方の講義で使っていただき、使用した感想を伺う、授業内で学生に発言カードを紹介するなどの活動を行いました。

今後の展望

アドバイスをもとに発言カードを試作し、実用に向けて活動していきます。

講義で使って
いただきました！



バリアフリー状況認知調査WG

目的

全ての学生にとって使いやすい学内環境を作ることを目的とします。

活動

学内のバリアフリー状況について特別支援室の利用者を対象としたアンケートを作成、実施します。ほかにバリアフリーの啓発活動として、様々なバリアフリーやバリアフリーマークの紹介を行うためのカードなどの作成を行います。

今後の展望

アンケートやバリアフリー紹介カードなどの実現に向けてアンケートの質問項目の設定やアンケート用紙の作成、バリアフリー紹介カードの作成を行っていきます。

作成中の紹介
カードです！

ー様々なバリアフリーの紹介ー

 ← CHECK!


カラー ユニバーサル デザイン

多様な色覚*に配慮して、
情報がなるべくすべての人に
正確に伝わるように
利用者の視点に立って
デザインすること

▷色覚障害の方にはどのようにみえているの？

	赤	緑	水色	ピンク	黄色	黄緑
一般色覚						
D型色覚						

上記のような色の組み合わせ、明るさが同じ色、
彩度の低い色(白や黒を含む色)などは識別しづらいです。

▷配色の時に気を付けること

- 赤ではなくオレンジ、暖色系同士・寒色系同士で使うなど、色相に配慮する
- コントラスト(明るさ)に差を付ける
- 彩度の低い色(パステルカラー)同士の組み合わせは混同しやすいため避ける
- 色数を増やし過ぎたり、色だけに頼り過ぎたりしない

「カラーユニバーサルデザイン推奨配色セット」
などを使用するのも効果的です。

宮城学院女子大学 大学特別支援室 サポーター

ーバリアフリーマークの紹介ー

 ← CHECK!


ヘルプマーク



▷目的・使われ方

外見では分からなくても、援助や配慮を必要としている方が、ストラップなどを使用して鞆に付けるなど、身に付けて利用します。

また、バスや電車内の優先席にステッカーを標示するなどでも利用されています。

*例えば…
義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、精神・知的・発達障害の方、妊娠初期の方

▷ヘルプカードとは？

マークが記されたカードで、援助する人に伝えたい情報(名前、連絡先、障害や病気の内容、配慮してほしいことなど)を記入できるようになっています。

▷マークを身に付けた方を見かけたら

- ・電車、バスの中で、席をお譲りください
- ・駅や商業施設等で、声掛けなどの配慮をお願いします
- ・災害時は、安全に避難するための支援をお願いします



宮城学院女子大学 大学特別支援室 サポーター

ーバリアフリーマークの紹介ー

 ← CHECK!


ほじょ犬マーク



身体障害者補助犬法の
啓発のためのマーク

▷ほじょ犬って？

身体障害者補助犬は、盲導犬、介助犬、聴導犬のことを言い、障害のある方の自立と社会参加をするための大切なパートナーです。身体障害者補助犬法に基づき、訓練・認定され、社会のマナーを守り清潔にされています。

▷身体障害者補助犬法とは？

身体障害者の自立と社会参加を促進するため、補助犬との社会参加の受け入れを義務付ける法律です。公共の場や交通機関での受け入れなどが義務付けられています。

▷補助犬を街で見かけたら…

街にいる補助犬は、お仕事中です。

ハーネスや表示のある胴着が目印だよ！

声を掛ける・写真を撮る・触る
食べ物上げる・じっと見つめる

補助犬と補助犬ユーザーが社会で安全に過ごせるように、上記のことは止めましょう。困っている様子が見られたら、できるだけ適切なサポートをしましょう。



宮城学院女子大学 大学特別支援室 サポーター

ーバリアフリーマークの紹介ー

 ← CHECK!


耳マーク



▷目的・使われ方

聞こえの障害を持つ方が、障害があることを社会に知ってもらうために、バッチや首掛けフォルダーにして身に付けて利用します。

また、病院やお店など公共施設の窓口で、「筆談できます」などの聞こえをサポートするメッセージを添えて広く利用されています。

▷マークを見かけたら？

提示されたら、筆談、口元を見せながらの会話やゆっくり話すなど、コミュニケーション方法などの配慮をしましょう。公共施設などで見かけたら、聞こえに障害がある方へ理解がある場所として覚えておきましょう。

▷関連するマーク



手話マーク



筆談マーク



聴覚障害者標識

聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマーク

宮城学院女子大学 大学特別支援室 サポーター

趣味・余暇活動WG

目的

学年・学部問わず、誰でも参加可能な擬似サークル的活動の開催を企画しています。学生の交流や物事を楽しみたい人が、気軽に参加することができる活動を目指します。

活動

やりたい趣味・余暇活動の募集・提案を行い、いくつかの活動案の中から学生にやってみたい活動についてのアンケートを実施しました。

今後の展望

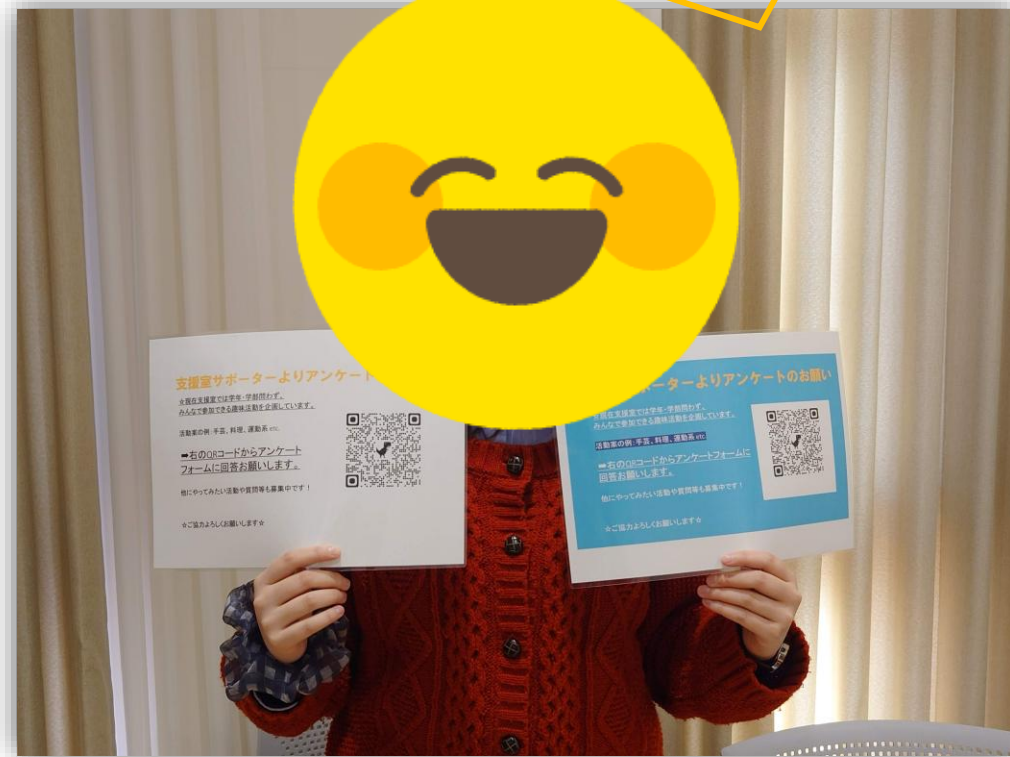
アンケートで募った活動をもとに、趣味活動を実際に企画して実行していきます。活動は一つに限らず、複数の活動を行えると良いと考えています。実際にやってみて、どのくらいのペースで継続させるかなどを検討したいです。

活動事例

手芸、料理、運動などなど

(他アイデアも募集中です!)

支援室サポーターで作成したアンケートを、QRコード内からアンケートフォームに回答できるように、ポスターを支援室内に掲示しました。



お茶会・交流会計画準備WG

目的

それぞれ都合の良い時間で活動したりWGごとにも集まったりしているのですが、なかなか会えない人もいます。お互いの活動について報告しあったり情報交換したりすることで、知識を増やしたり別の視点からの意見をもらえたりするため、交流の時間も大切にしたいと考えます。


活動

上記の目的のもと、このWGでは、お茶会などの交流会を企画し、実施に向けて準備を進める活動をしています。


今後の展望

他学年・他学科の学生と交流する機会は貴重なもので、季節のパーティーなど定期的に計画し開催したいです。みんなが興味深く取り組める活動も考えていきたいです。





活動の一場面



司会・進行も
務めます！



クリスマス会開催に向けて準備中！

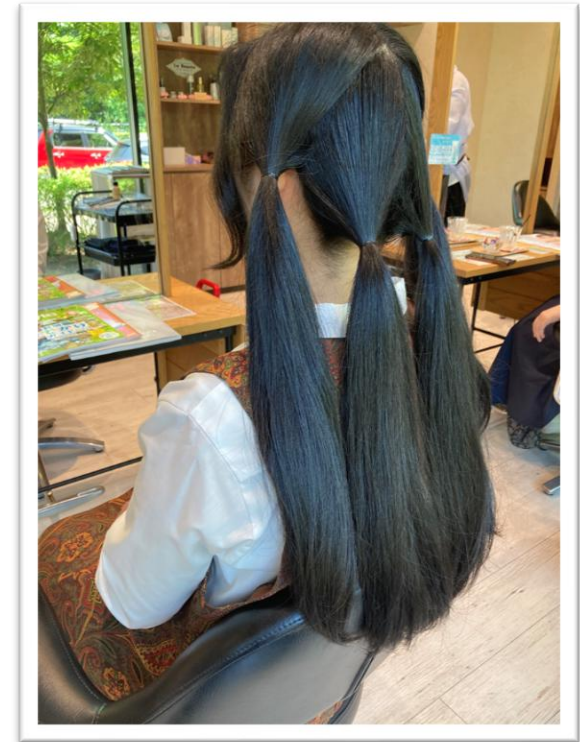




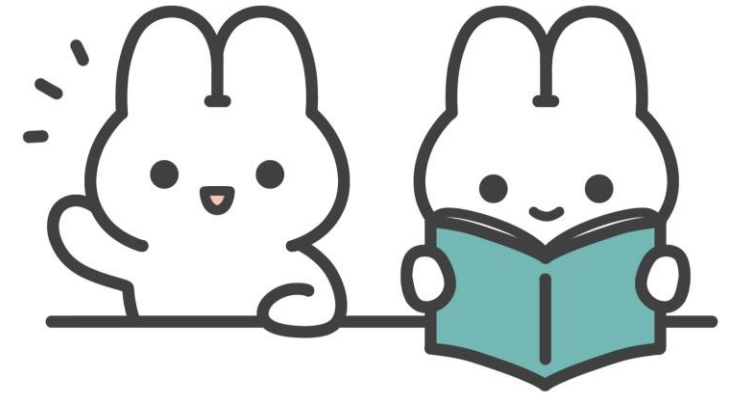
研修会

第1回：ヘアドネーション体験レポート

ヘアドネーションを実際に行った本学学生をゲストとして呼びし、ヘアドネーションとは何か、ヘアドネーションをしようと思ったきっかけやヘアドネーションの仕方、ヘアドネーションをするときのポイントなどについて、ゲストの経験を交えてお話ししていただきました。



学んだこと



ヘアドネーションについて

- ヘアドネーション＝髪の毛の寄付。
- さまざまなNPO法人がドネーションを引き受けている。
- 寄付するNPO法人によって用途やドネーションできる条件は異なる。

ヘアドネーションをするときのポイント

- 利用する団体のポリシーに自分の希望が合うかどうか考えよう。
- 無理に髪を切ろうとはしない。提供したいと思える時にしよう。
- 募金やグッズ購入という支援の形もある。



第2回：台湾の文化を学ぼう！

- 留学生の江さんから、台湾の若者が好きな食文化や物価などについて説明を聞いたり写真を見たりして学びました。
- 道路いっぱい屋台が広がっている風景など、日本とは違った文化だということを目の当たりにしました。





第3回：クリスマス会兼活動報告会



- ・12月12日、支援室サポーターでクリスマス会兼報告会を行いました。
- ・当日はお茶やお菓子、ランチBOXなどが配られ、食事を楽しみつつ、改めてサポーター同士で自己紹介や活動報告、レクリエーションとしてカードゲームをしました。
- ・クリスマス会を通してお互いの意外な一面を知ることができました。

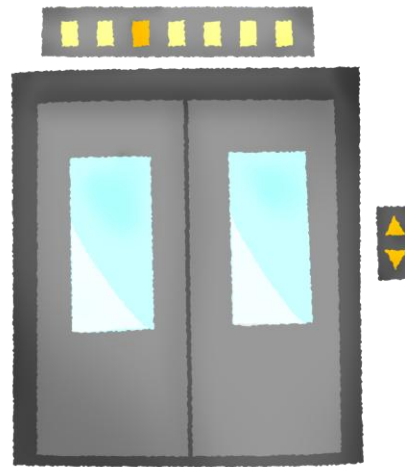




個別の サポート活動

車いす運搬作業


- 支援対象の学生さんが車いすが必要になった時にすぐに利用できるよう、支援室から講義をする教室の近くまで車いすの運搬・設置を行いました。
- 運搬途中には、車いすに気づいた学生さんがドアを抑えてくれたり、エレベーターの開ボタンを押してくれたら、サポートしてくれました。



視覚障害学生の情報保障

- 授業資料を読みやすくするための拡大読書器というツールがあります。
それが必要な授業で、設置準備や片付けを手伝いました。





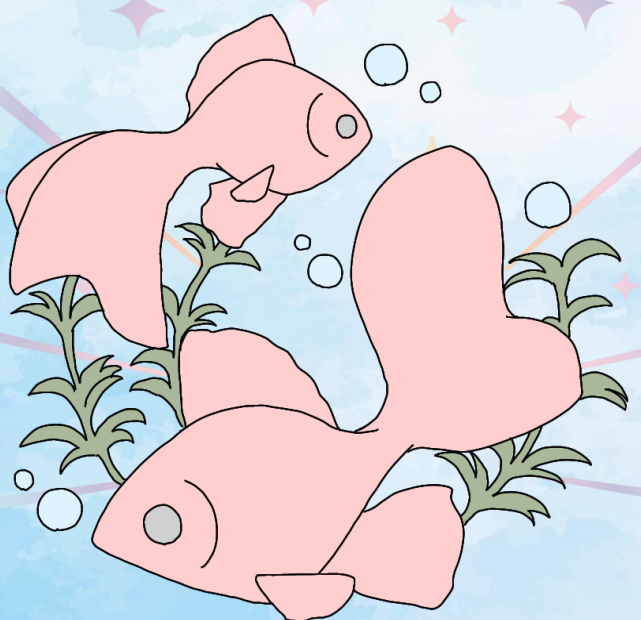
今年度の
振り返りから

- 支援ツールを運搬する作業に従事したが、支援対象の学生さんの気持ちを考える機会になった。
- 研修会への参加を通して、多様性への理解が進んだ。
- 掲示や支援用品など、学内で実際に使用されるものをデザインする活動を行った。これまで開発されたユニバーサルデザインのグッズなどがどれだけすごいか改めて分かった。





- ワーキンググループで活動したことで、役割分担などを通してチームにおけるコミュニケーションの取り方を学べた。
- 「障害者に関わる活動」と思われがちだが、障害の有無に関わらずみんなに向けての活動だと感じた。
- サポーター同士の交流もでき、楽しかった。
- 先生方にインタビューするなど普段関われない人と関わることができた。
- 支援ツールの開発を行い、先生に「使ってみたい」と言われ、やりがいを感じた。



随時メンバー大募集中！ 私たちと一緒に 活動しませんか？


<問合せはこちら>

学生相談・特別支援センター 特別支援室 (担当者：松田)

TEL：022-277-6276 Email：shien2@mgu.ac.jp

URL：<https://www.mgu.ac.jp/campus/support/shien/>

イラスト：本学学生

A scenic view of a university campus. In the foreground, there are vibrant pink flowers, possibly azaleas, in full bloom. Behind them is a large, well-maintained green lawn. In the background, there are several buildings, including a prominent tall, dark brick bell tower with a cross on top. The sky is a clear blue with some light clouds. The overall atmosphere is bright and welcoming.

お待ちしております！

表紙・最後のページの写真提供：
幼児教育専攻2年 齋藤はるな